

医療関係者・自治体関係者の方へ

「新型コロナウイルス感染症の拡大の中での乳幼児健診への対応について」

日本小児医療保健協議会合同委員会 健康診査委員会

2020/05/01

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染の拡大が認められ、小児も含めた国内の患者数は増加が続いています。医療機関、自治体関係者の方々は大変多忙な中、乳幼児健診への対応も求められています。日本小児保健協会、日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児期外科系関連学会協議会の 4 団体で構成される健康診査委員会では、今般の状況下での「乳幼児健診への対応」について、以下のようにとりまとめました。地域の状況に応じた乳幼児健診へのご対応をお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、乳幼児健康診査を集団で実施することが困難なため中止や延期の状況となっています。その場合におきましても、母子健康手帳に記載してある成長・発達の目安の活用を呼びかけて、お子さんの成長や発達に心配があるご家族に向けて、個別相談の機会を設けていただくことが望ましいと思われます。個別相談は、医療機関への受診機会の活用、自治体の保健師への相談などの対応が考えられます。具体例としては、医療機関に予防接種などで受診の際の身体計測や乳幼児健診の問診票を用いた保健師への電話相談窓口の設置、SNS の活用などが想定されますが、地域の状況に応じた対応可能な範囲での工夫が望まれます。